

クリーンセンターだより

南部町・伯耆町清掃施設管理組合
クリーンセンター
お問い合わせ 66-2281

入っています。こんなもの、あんなもの。

クリーンセンターでごみを焼却したあとに出てくる焼却灰には、多くの不燃物が出てきます。

主なものは、あき缶・針金・ボウル・茶碗等ですが、大きなものになると、フライパン・座椅子・鉄製パイプなどがあります。収集時に不燃ごみの混入が分かれば未回収の理由を書いたシールを貼って残しますが、混入が分からないまま焼却した灰の中には非常に多くの不燃物があります。

これらの不燃物は職員が灰の中から取り除く作業を行っていますが、全てを取りきることは出来ません。



直径1m×高さ1.2mの袋状の入れもの（フレコンバック）に入れてある不燃ごみの数々。1袋が約3か月でいっぱいになります。

不燃物の多くはあき缶で、全体の7割くらいを占めています。ジュース・ビール・缶詰の容器等です。次いで針金（衣類用ハンガーも含め）が目立ちます。



裏面もご覧ください

次に見ていただくのは、あき缶等ほど数は多くはないのですが、けが・事故・施設の故障につながる可能性の高い不燃ごみなどです。



(上の写真左から)
カセットコンロ用ボンベ・草刈り機の刃・缶詰・針金・のこぎりの刃

収集車は回転板を回しながらごみを積んでいきます。その工程ではごみに圧力をかけて押しつぶします。当センターではボンベが爆発した事故はありませんが、全国では事故も発生しています。焼却炉の中ではひょっとしたら小規模な爆発が起きているかもしれません。カセットボンベだけではなく、使い捨てライターや整髪料のスプレー缶も同様です。

草刈り機の刃・のこぎりの刃については、収集車に積み込む段階で作業員が怪我をする可能性があります。



左は座椅子の骨（鉄製パイプ）です。長さ1.2m・幅70cm程度のもので、収集の袋には入らない大きさなので、直接持ち込みをされたものだと思います。

焼却設備に引っかかることなく灰が出てくる所まで出てきたようです。このような大きさのものは、コンベヤ等の設備に挟まることもあり、施設・設備の故障につながることもとなります。

最後になりますが、住民の皆様のごみ減量に対するご協力には、たいへん感謝をしております。多くの方々が分別についてもルールを守っていただいていると思います。ただ、当センターから出る焼却灰の不燃物混入割合は、近隣市町村の中で最も悪い状況です。

あらためて、分別・リサイクルの意識を高めいただくように、お願いします。